

初任者研修

研修所で行う研修
(第4回)

リフレクション通信

兵庫県立教育研修所

第4回は、第5・6回の集合研修とのつながりを意識して、オンライン（双方向）で講義・演習を実施しました。講義・演習では、チャットやブレイクアウトルームで交流し、新たな気付きを得たり、考えを深めたりすることにつながったと感じます。中学校の各教科の講義・演習では、Jamboardで共同編集しながら協議を深めたり、互いの考えを比較したりした教科グループもありました。

小・中学校共通

【特別支援教育】

○研修に向けて

- 学級には、特別支援学級に在籍している児童が数名いて、関わりの中で様々な考え方を学ぶことが多くあります。特別支援学級の児童だけではありませんが、個別の支援を考えていく上で、どのようなことをしていけばよいか分からないこともあり、難しいと感じる場面もあります。今回の研修で、特別支援教育に対する理解を深め、今後の関わりに生かしたいと考えています。
- 特別支援教育については、まだまだ分からないことがたくさんあります。支援といっても本当に一人一人必要としている支援が違うので難しいです。前回はとてもやる気があって頑張っていた子でも、今日の授業の時にはやる気がなさそうにしていることがよくあります。休ませてあげたい気持ちもありますが、ずっとそういった対応をしてもその子の成長に繋がらないような気がします。中学校は教科によって教員が異なるので、こういった時の対応を教員間で統一しておくことも重要なのではないかと考えています。

○研修の振り返り

- 今回の研修で、特別な支援を必要とする児童の教育的ニーズを保護者や本人から正確に把握し、その児童の可能性を最大限に引き出すことが重要だと分かりました。障害の有無に関わらず、一人一人の児童理解を図り、個別に合理的配慮について考える必要があると思いました。今後、クラスの児童がお互いを認め合い、特性を理解し合いながら、生活することのできるクラスにしたいと思いました。
- 自分のクラスにいる生徒を思い浮かべながら、どんな支援が必要なのか考えることができました。また、ブレイクアウトルームでの意見交換があったので、新しい気付きもあり深い学びとなりました。学習面で支援するにあたって、これからは文字の大きさや形、フォントに気を付けながら、その生徒だけでなく全体で意識するとそれも合理的配慮の一つだと学んだので生かしていきたいです。そして、指示は明

確かつ簡潔に、視界に入る情報量を減らすということも意識したいです。社会面においては、コミュニケーションがうまくとれない生徒に対する支援として、実際にやっていることを話すことができました。会話は相手との対話で成り立つことを考えさせ、全体指導の中でコミュニケーションスキルの向上を図ったり、個別指導で相手の気持ちへの気付きを与えたり、個と集団を使い分けながら指導していきたいと思いました。支援の意味をされる側で考え、少しでも自立に向けて支援の量を減らせるようにしっかり生徒と向き合い、その生徒の願いを共有することが重要だと感じました。

小学校

【理科授業づくり】

○研修に向けて

- 学びたいことは、子ども達が実生活と結びつけて学べる授業づくりについてです。私は、1学期に理科の授業を行いました。単元の導入では、「生活の中で、このようなことを見たり、経験したことはありましたか。」と発問しました。その時に、今の子ども達は、習い事が多いことや、スマートフォンなどのデジタル機器に触る機会が多いためか、「そんなこと経験したことない。」と返されることもありました。このように、子どもの実態として、あまり外で遊ぶという経験をしていないため、イメージがつきにくくなっているということを感じています。そこで、今の子ども達の興味を惹きつける授業づくりについて学びたいです。
- 理科の授業で子どもたちに疑問や問いを持ってほしいと考えていますが、実際は教員の主導になってしまっています。そのため、子ども達が自分自身で問いを持ってその問いについてどうやったら調べられるかを考えられる主体的な授業のつくり方を学びたいです。

○研修の振り返り

- 予想や考察を子ども達に書かせるときに、手が止まってしまう子どもがいたり、今回の研修でもあったような「重さが変わらないことが分かった」というような考察になってしまったりしていたので、書く視点を子ども達に伝えたいと思いました。また、タブレット端末を使い、グループ交流したことで活用できそうな場面があったので取り組んでいきたいと思います。まだ実験器具を使った授業はあまりしたことがないのですが、教えるだけではなく子ども達に考えさせることを大切にしたいと思いました。
- 理科ではただ、予想するだけでなくなぜそう考えたのかという根拠をもった上で予想を立てたり仮説を立てたりしていくことが大事だと分かりました。また、科学的に解決していくために、実験から得られた事実や数値をもとに考察していく力を付けていかなければならないと感じました。学習指導要領を確認し、各発達段階で重視したい思考力・判断力・表現力等を土台に、考察に必要な観点を教員から少し提示することで、子ども達から実験結果や課題を意識した考察、結論に導くことができると分かりました。なかなか事前に準備をすることが大変ですが、理科が楽しいと思って学習できるように工夫していきたいです。

【社会科授業づくり】

○研修に向けて

- 単元によってはただの知識の伝達になってしまいがちで、なかなか子どもが考える授業にならないことがあります。また、写真の中や地図を見せたときに授業のメインになかなか子どもが注目してくれず、疑問を抱かせることに難しさを感じています。
- 社会の学習では、資料を読み取る力を身に付けさせたいと考えています。将来何かを調べた時に、情報を比較したり、関連付けて考えたりする力を社会科で養いたいと感じます。担任しているクラスには、社会に苦手意識を持っている児童も何名かいるので、より身近に感じられるような授業展開ができるようになりたいです。

○研修の振り返り

- 社会科の授業では子どもの疑問から資料や既習事項と結び付けて予想を立てることで子どもが関心を持って授業に参加できるということを学びました。子どもの中には資料を読み取って予想を立てることに苦手意識を抱いている子が多くいますが、自分の疑問から出発することで資料を読み取る意欲になるのではないかと感じます。また、授業の動画を見て、子ども主体の授業とはどういうものなのかということを実感できました。どうしても授業は教員対子どもになりがちですが、子ども同士が意見を繋ぐことで思考が深まっていくということを感じ、子ども同士が意見に対して反応したり他の子どもに問いかけたりできる場面をつくっていきたいと思いました。
- 今日の研修で、社会科の授業や子ども達の思考の流れを学ぶことができました。今まで社会でもめあてを立てていましたが、そこを疑問形にすると、子ども達が自分なりの予想を立てて、それに合った資料を探そうと気付いたので、単元に合わせて取り入れてみたいですね。視聴した社会の授業が、とても印象に残り、必ず意見に根拠や理由を持たせるのが大切だと感じました。子ども達に「はい、調べてみよう」とだけ伝えるのではなく、意図を持って資料を準備しておくように意識したいです。

中学校

【国語科】

○研修に向けて

- 最近の生徒は時代劇などほとんど観ないし、昔の言葉遣いにも触れていません。そんな彼らに古典文学や昔の中国の話などを学ぶといってもなかなかやる気につながらないです。まずは昔の日本の生活様式やものの考え方などに触れて親しみを持たせたいので、古典の世界に入るように心がけています。他の人がどういう方法をとっているのか、いろんな手立てが学べれば良いなと思っています。

○研修の振り返り

- 答えが一つとは限らないこと、考えたこともなかったこと、やや難解なもの、が良いのではないかと思います。「かぐや姫がなぜ竹から生まれたのか」という問いについて考えた時間は、様々な意見が聞けてとても面白かったです。答えを決めるために話し合うのではなく、その過程を大切にすることで、さらに調べたいという気持ちになるのではないかと思います。作品を読む力も大切ではあるけれど、答えのない問いについて議論をする時間を積極的に設けていきたいです。

【社会科】

○研修に向けて

- 地理に限らず、課題を探究するような授業に取り組んだことがないため、どうすれば生徒が主体性をもって取り組むことができるのかについて、他の先生方との交流を通じて考えを深めていきたいです。

○研修の振り返り

- 地理的分野と歴史的分野の具体的な授業づくりについて考えました。どの教科でもいえることですが、学習過程の中で知識を身に付けることが大切で、知識の詰め込みでは理解とはいえないことを再認識しました。ICTを活用して情報を収集・整理する活動を今後の授業でも取り入れていきたいですが、どのように課題を設定して調べさせるか、まとめをどのように行い、発表や意見交流の場面を設けるかなど、次回以降の研修で深めていきたいと思います。

【数学科】

○研修に向けて

- これまでは授業で身の回りの事象を取り上げることで物事を数学的に捉える力を身に付けさせようとしていました。しかし、生徒自らがあらゆる事象を数学的に捉えて問題解決を図れるような取り組みはできておらず、教員主導で題材を決めてしまっているため、生徒の中で問いのある学び合いができるような手立てを学びたいです。

○研修の振り返り

- 具体的な姿を考えながら、授業のポイントを整理することで、どのような力を身に付けることが重要か、また、それまでにどのような力を身に付けさせておくべきかを確認することができると思いました。より効果的な授業づくりができるように、多くの意見を参考にしながらやっていきたいと思います。

【理科】

○研修に向けて

- 考えを深めさせるための発問を考えることが大切だと分かってはいますが、難しいと感じています。同じ答えを求める問題であっても、発問の工夫で違う答えが返ってくるなど感じています。
- 教材研究は絶えず行っていかなければならない課題であると思いますが、重要なのは生徒にどのような力を育成していくのかというビジョンを教員自身が持つことだと思います。この研修を通して、授業づくりをしていく上での視野を広げられるようにしていきたいです。

○研修の振り返り

- この時間は収穫が多かったです。「自然事象に対する気付き→課題を見出す場面→仮説を設定する場面」のそれぞれについて育成する資質・能力を考えました。実物があってこそその理科であること、自然事象に対する気付きを起こさせる誘導、既有知識と目の前で起きている事象の比較から疑問を持たせるような導入を行うことの大切さを改めて認識することができました。その流れで課題を見出すことができるので、導入は非常に重要だと実感しました。他校の先生方が、実験の課題設定と仮説から子ども達に考えさせていると知って、自信が湧いてきました。私もそういった探究的な授業ができるようになりたいです。

【音楽科】

○研修に向けて

- ・何回目かの教科授業なので、そろそろ自分だけでも指導のねらいに沿って組み立てていけるようになっていきたいです。ICTの授業活用についても今自分が悩んでいる事なのでしっかり研修を受けて授業に生かしたいです。

○研修の振り返り

- ・雅楽を題材に、授業の展開について話し合いました。生徒に「拍」と「間」を理解させるために、どのような提示の仕方をするかについて意見を交換する中で、その難しさを実感するとともに、歌唱や比較、共通点の模索などの活動によって引き出すことができるのではないかというアイデアを得ることができました。

【美術科】

○研修に向けて

- ・造形的な視点の授業づくりについて、どうやって生徒に「造形的な視点」を意識させれば良いかがわかりません。

○研修の振り返り

- ・美術の授業を通して生徒に学ばせたいこと、めざす子どもの姿を明確にイメージして上で、生徒自身がどう自分なりの意味や価値を見出すか考えることができました。文様の収集では、自分の好きな文様を集めることで自分について考え知ることもできました。いろいろな文様を見比べることで特性や形など、様々な要素に目を向けることができました。まだ不十分なところも多くあると思うので、造形的な視点の森を観る視点、木を観る視点を意識してより深く考えられるようになりたいと思います。

【保健体育科】

○研修に向けて

- ・各自、持参してきた資料をもとに、自分以外の先生方がどのような授業づくりをしているのかとても気になるので楽しみです。また、タブレット端末を用いた授業をどのように展開しているのかを学ぶ良い機会になると思うので、一生懸命取り組みたいと思います。

○研修の振り返り

- ・試合の中で動けない生徒に対してなぜ動かないのだろうと考えるのではなく、なぜ動けないのか、この授業内でストレスを抱えているのではないかと考えることで、運動が苦手な生徒にとって楽しいと思える授業づくりにつながると感じました。保健の授業で学んだことを生徒自身が日常生活に生かせるような具体的な授業方法や、例をもっと知りたいと思いました。

【技術・家庭科(技術分野)】

○研修に向けて

- ・現在、授業略案を作成して授業に臨んでいます。授業の中での発問、生徒の予想される発言を考えて進めていくのが苦手なので、授業づくりの基礎から学び直したいと思います。

○研修の振り返り

- ・実践的・体験的な学習をするにあたり、安全に作業をするためには日頃からの環境整備や機械や工具の管理、生徒に起こりそうな危険などをあらかじめ想定しておく必要があることを改めて感じました。また、めあての設定の工夫でより深く考えられる状態になることも分かったので、これから参考にして深い学びができる授業づくりをしていこうと思いました。

【技術・家庭科(家庭分野)】

○研修に向けて

- ・生活から課題を発見する手立てを学びたいです。生活に生かせるようになるにはどうすればいいかを知りたいです。今取り組んでいることは、毎時間振り返りの時間を設けることをしています。

○研修の振り返り

- ・生活の中にある課題を、いかに自分事として生徒が捉えられるかが重要だと思いました。生徒が問題についてイメージが持てない場合、こちらから例を示したとしても、最終的には生徒自身の生活に生かせる工夫を授業内で取り入れていきたいです。

【外国語科】

○研修に向けて

- ・コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためには、まず、自分の言いたいことを、授業で習った簡単な文法や単語を用いて表す英語力と、自分の言いたいことを簡潔にまとめることのできる能力が必要であり、両方の能力を普段の授業の中で少しずつ身に付けていかなければならないと思います。授業中、近くにいる友だちと話す時間に個々の能力をみてアドバイスをしていますが、どのように教えたらよいか分かりません。

○研修の振り返り

- ・なぜ、コミュニケーションを図れないのかという問いに対して、一番に頭に浮かんだことは、「環境」でした。英語を用いる必要性がないこと。日本という社会で全て賄っていくことができるからだと思います。英語が「伝わる」感動や嬉しさを体験して初めて、コミュニケーションの必要性に気付くと思います。そのために、授業では身近な事柄や社会の問題まで、自分の意見を発言する場面の設定、疑似体験をさせる場面の設定をすることで、生徒自身が「自分事」として英語を使用し始めることを学びました。Small Talk の導入で身近な事柄について話すことができる能力や即興性を養うことができるので、スピーキングの観点から効果的であると思います。学習指導要領を読み、未来を担う子ども達にどのような英語の能力が必要であるのか、熟考したいと思います。